

街角には郷愁が漂う

シリーズ街並み再見7

田尻から関屋——旧街道に沿って

◆県境の古い道標を ふりだしに

田尻は川一つ、山一つ向こうが大
阪府柏原市という、香芝市の西端
にあります。かつて「大和の田の尻」
といわれたように、奈良県の西の端
田尻とはいわば一種の方向地名で
す。

トラックなどの大型車が行き交
う国道165号と近鉄電車大阪線
が並行して走る大阪府との境界へ、



原川沿いの旧道を歩いてみました。
道は使われていない橋を通行止め
の要害にして、その向こうに同じよ
うな舗装された旧道が見えます。

大正九年に建立された背の高い碑
には「從是東奈良縣管轄」「大
和國北葛城郡二上村大字田尻」
と刻まれています。早春のうららか
な陽射しが、道標の文字をくっきり
と浮かび上がらせていました。しば
らく見つめていると、電車や自動車
の騒音が嘘のように遠のき、荷馬

車がゆつくりと通るような気がし
てきます。

人家のある方へときた道を戻り、
左に小橋を渡ると、観音寺への参道。
階段の両脇には、桜並木が続いてい
ます。開花期には大勢の花見客で
賑わうようです。上り詰めると、中
国風の山門が不思議な雰囲気醸
し出していました。観音寺は別名
を矢受観音、または身替り観音と
もい、本尊が千手観音菩薩立像。
有名な伝説が残されている古寺な
のです。

南北朝の戦乱の折、大楠公・楠木
正成が北条軍と戦って追われ、田尻
に身を隠していた。そこへ追手が打
ち寄せて来て、再び激しい戦いと
なった。正成は体に矢を受けたが、
少しも傷つかなかった。しかし、か
たわらの御堂にあった観音像の胸
の辺りから血が流れて、衣を染めて
いたといいいます。それからはこの
観音さまを身替り観音、矢受観音
としてまつり信仰したと伝えられ
ています。

境内では、今は盛りと白梅紅梅
が咲き誇って、香りを漂わせていま



◆関屋の道標で ひと休み

旧道へ戻り、線路に沿って関屋へ
道をたどります。しばらく行くと、
右手に近鉄電車の関屋駅がバステ
ルカラーのモダンな姿を見せます。
そこへ左から広い道が下っています。
関屋北の住宅街からの道路です。
駐在所があつて、踏切を渡ると、穴
虫の方角。丘の上に新しい住宅が

す。一番奥にある本堂を訪れると、
おみくじ機が置いてあり、干支の裏
の絵馬が奉納されていました。50
円を入れると、ポロンとおみくじが
出ました。そつと開くと、末吉。な
んとなく心温まるような古寺の春
の風情にひたっていました。



たくさん並んでいます。樟蔭女子短期大学や総合プールのある丘陵地が続いています。

旧道を少し東へ、川を渡ると酒屋の倉庫の前に比較的新しい道標がありました。「左大楠公矢除観音道 〇・七料」と観音寺への距離が刻まれています。ここは旧道が出会う場所、川に沿って北から来る道がかつての国分峠を越えた長尾街道だったようです。長尾街道はここから関屋の集落を抜け、田原本街道、伊勢街道と分かれます。

関屋は、その名が示すようにかつて関所が設けられた所。江戸時代の中頃には旅籠が何軒もあり、街道を行き交う人々で賑わって宿場町として栄えました。明治になってからは、田尻の新道が開通し、車馬の往来がひんぱんになったといえます。

◆関屋の家並に郷愁を感じて、小道をたどる

昔ながらの家並が続く関屋の集落の方へ旧街道は坂道となつて続いています。所々、新しいマンションや住宅が建設されて、時代の移り



変わりがみられます。

道が大きくカーブする手前に鳥居があり、潜ると八幡神社の桜並木の参道が続いています。境内に一步足を踏み入れると、砂に楠の実がたくさん落ちていました。かたわらに木の株が三本と思つたが、よく見ると椅子。背もたれがあることに気がつかなければ、ただの木の切り株としか思えませんでした。静かな境内に隣の保育所から、子供たちの声が風に乘つて聞こえてきます。

民家の間の小道をたどつて、街道と並行して東へ向かいます。寺院や落ち着いたたたずまいの民家が続き、やがて目の前に水面が広がり、



下池に出ました。右には小さな公園があり、十人ほどのお年寄りがゲートボールを楽しそうにしています。飛行機を型どつたすべり台、サイレンの付いた塔、さき波のたつ池面、ボールを打つカーンという音が響いています。ふと見上げると、民家の壁に時計がはめ込まれていました。きつと公園で遊ぶ子供たち、ゲートボールをするお年寄りに時を告げるためにと作られたのでしよう。

小道は街道が田原本街道と長尾街道の分岐点の道標のある一画に出ました。郷愁を誘うようなどかな風景が、碑の向こうに続いています。